



平成6年の転石ダム(佐世保市)の枯渇

安定した水源が不足している佐世保市は、昭和50年以降ほぼ2年に1回の割合で渇水の危機に見舞われ、平成6年には『日本一厳しい』といわれる264日間におよび給水制限が行われました。石木ダムの建設は、川棚川の治水対策に加えて、佐世保市へ水道用水を安定的に供給することを目的としています。これまで、ダムの適地として県北地域の19力所を調査しましたが、地形や地質などの問題から他に適した場所がありませんでした。また、既存ダムのかさ上げや漏水対策などにも取り組んできましたが、水源不足の解消には至っていません。

生活や産業に必要な『水』

川棚町の洪水被害

川棚町の市街地を流れる川棚川は、大雨によりたびたび氾濫し、周辺住民は大きな被害に見舞われてきました。このため、県では過去の災害を踏まえ、川棚川の治水計画を立て、洪水被害の軽減に取り組んでいます。



平成2年の大雨では、水が堤防を超えるなど広範囲で浸水し、一部では人の胸付近の高さまで水位が上昇しました

活発な人・物の流れによって、賑わいにあふれ、あらゆる産業が発展する県北地域へ

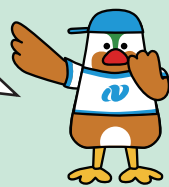


整備が進む西九州自動車道

佐世保港に寄港しているクルーズ客船

県北地域の拠点・佐世保市が活力あふれるまちになることで地域全体が元気になるばい。

地域が強みをいかして発展していくためにも、社会基盤の整備は重要かよね。



渇水がもたらす市民生活への影響 —平成6~7年の大渇水—

水洗トイレで水を流すことができなかつたり、ためた水で手を洗うなど、**不衛生な生活**を強いられた



水を使う理美容業や飲食店にとっては**営業ができず死活問題**となった

初期消火ができず**消火活動が遅れ、建物の全焼**につながったこともある



大雨への備え

県では、流域の人口や資産、過去の災害などを基に、河川毎に『想定する雨』を同じ基準で決定し、その雨を安全に流すことができるように河川の治水計画を立てています。川棚川は、流域に人口や資産が密集しており、氾濫すると大きな被害を受けることが予想されるため、概ね100年に一度の大雨を想定した計画としています。

川棚町の洪水被害

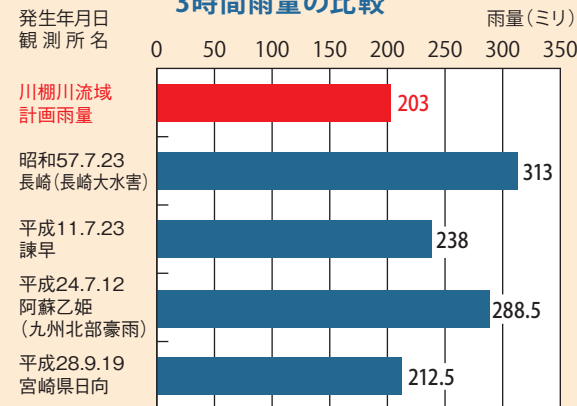
発生年月	雨量(ミリ)		被害状況
	3時間	24時間	
昭和23年9月	187.6	384.2	床上・床下浸水 2,000戸
昭和31年8月	187.5	279.5	床上・床下浸水 801戸
昭和42年7月	172.8	222.8	床上・床下浸水 128戸
平成2年7月	140.0	348.2	床上・床下浸水 384戸
川棚川の計画雨量	203.0	400.0	概ね100年に一度の雨

Q 川棚川で想定している雨量はどれくらいなのかしら？

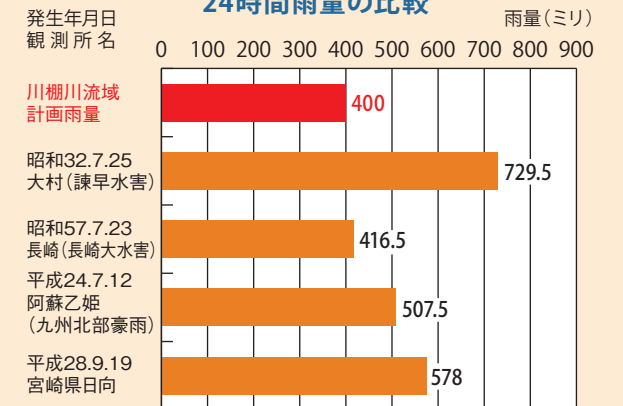


A 川棚川では、概ね100年に一度の大雨として3時間203ミリ、24時間400ミリの雨量を想定しています。近年、周辺地域ではこれを超える雨が降っており、川棚川でも十分に発生しうる雨量です！

3時間雨量の比較



24時間雨量の比較



事業推進に向けた県の考え

現在進めている石木ダムの建設については、長年にわたる歴代の知事が現地をお伺いするなどして、地権者の方々と話し合いを続けた結果、約8割の方々にご理解いただきました。しかし、約2割の方々のご協力を得ることができず、現在、やむを得ず、正当な補償を前提とした用地の収用手続きを進めています。近年、全国的に短時間での集中的な大雨が増えており、生命・財産を守るためには災害への備えがますます重要となっています。また、今年4月に中核市となった佐世保市の発展には、安定的な水源を確保することが不可欠です。こうしたことから、県は、一日も早い石木ダムの完成に向けて取り組んでいます。